

ボランティアだより

編集・発行
大阪狭山市ボランティアセンター
☎ 367-6601

子育て講座を実施中

第1回の講座が、9月15日(土)に
子育て支援センター“ほっぼえん”にて開催されました。

さやまおりがみ倶楽部を講師に、にんじんや大根など、やさいのおりがみを
楽しみました。17組の親子が参加し、笑顔のあふれる講座となりました。

第2回9月30日(日)“クラフトを楽しもう”二連かざぐるま・はね蛙・ゲロゲロコケッココ
講師：メンズボランティア狭山・シルバーアドバイザー狭山

第3回10月28日(日)“親子自然体験”落ち葉であそぼう
講師：シェアリングネイチャー

第4回11月10日(土)“おはなしを楽しもう”あっちゃんあがつくあそびましよう
講師：さやまおはなしの会



時 間：いずれも午前10時30分～11時30分
場 所：大阪狭山市立子育て支援センター“ほっぼえん”
対 象：3歳～就学前の子どもと保護者(祖父母も大歓迎)
材料費：300円
定 員：20組(定員になり次第締切)

申込については、ほっぼえんにお電話ください。
電話：072-360-0022

主催：大阪狭山市立子育て支援センター“ほっぼえん”
企画・運営：大阪狭山市ボランティアグループ連絡会



笑顔のボランティア講座

あなたの笑顔で地域を元気にしませんか。ボランティアの基本は“笑顔”!!
“笑顔”の基本は口元にあり!! そして“若さの秘訣”も口元にあり!!
口腔ケアについて楽しく学び、“笑顔”ある今後の活動につなげませんか。

日時：平成24年10月23日(火)
午前10時～12時(受付:9時30分～)

場所：さやま荘「大広間」

内容：笑顔をつくり脳を活性化させる話や若々しさの秘訣
8020(80歳で20本の歯を残す)達成への実習

講師：歯科衛生士 小田 見也子 氏

対象：市内在住・在勤・在学の方

定員：30人(先着順)

申込：「笑顔のボランティア講座受講希望」と、
郵便番号・住所・氏名・年齢・職業・電話番号を書いて、
ハガキまたはFAXにてお申し込みください。(電話での受付はできません)

参加費
無料



締切
10月15日(月)
必着

申込先 〒589-0021 大阪狭山市今熊1-85
大阪狭山市ボランティアセンターまで FAX:366-7407

主催：大阪狭山市ボランティアグループ連絡会

要約筆記講習会

♥ ことばを書いて伝えるノートテイク方法 ♥

【と き】 10月12・26日/11月9・30日/12月14日
金曜日 午後1時30分～4時 全5回
【ところ】 さつき荘「スポーツ室」
【受講料】 500円(資料代)
【対象】 市内に居住・通勤・通学の人
【主催】 要約筆記通訳グループ「どんぐり」
【申込先・問合せ先】 大阪狭山市ボランティアセンター ☎ 367-6601





傾聴ボランティア

養成講座



6月14日、21日、傾聴ボランティアグループ「傾聴さやま」主催で開催しました。

当日は24人の参加者で賑わい、市民の関心の強さを感じる講座となりました。講義だけでなく、聴き手と話し手の役割を両方体験することで、実践的に学ぶことができました。「難しかったが、自分の活動に活かしたい」「傾聴ボランティアの必要性を、身にしみて感じました」などさまざまな感想をいただきました。

車いすの使い方 基礎講座



8月7日、ボランティアグループ連絡会と教育委員会の共催で開催しました。

大阪介護福祉士会から講師をお招きし、車いすの選び方のポイントや事故防止に関することから、車いすの利用者を介助する際に、大切な心構えまで様々なことを学びました。

「相手の立場で考える」頭ではわかっていても、実際に体験してみないとわからないものです。実習を通じて、利用者の気持ちを実感するよい機会となりました。



夏のボランティアジョニアスクール



8月22日、ボランティアジョニアスクールを開催しました。

小学2年生から中学3年生の子どもたち22人が参加しました。

今回は「みんなであげよう玉手箱」をテーマに、浦島太郎の世界を表現しました。

午前は紙芝居読み聞かせや、亀のお面づくり、折り紙でつくったプレゼントの作成、手話コースの練習を行いました。

午後は、特別養護老人ホーム「ファヴオーレ」にて学んだことを発表しました。多くの利用者に迎えられ、緊張しつつも練習通り発表でき、みんな一緒に手話を楽しみ、会場全体が一体感に包まれました。

はじめての手話に チャレンジ



9月5日から、手話サークルさやま主催の手話教室がスタートしました。この教室は全8回あり、手話の基礎から学べます。

初回の教室には、手話を習得したい5人の参加者が集まり、うち4人が手話初心者でした。

講師の片桐さんから、まだ手話ができなくても、表情や身振りなど、ことば以外のコミュニケーション手段があることを教えていただきました。



プルトップを集めて 車いすを贈る運動

ボランティアグループ連絡会 プルトップ部会の活動



プルトップ通信の発行は平成17年2月4日にはじまり、この9月に92号を発行した。当初1ヶ月の回収量は7098g、現在の月平均回収量は約160kgに達している。

介助式車いす1台に必要なプルトップは690kg、プルトップ1個の重さは0.3g、換算すると約230万个になり、一人一日5個貯めても1300年近くかかる計算になる。



今日までに14台の車いすを獲得し、小学校・デイサービスや自治会館などに贈られた。寄贈先はボランティアグループ連絡会の定例会議で決める。

この運動を支えているのがボランティアグループ連絡会のプルトップ部会で総数18人のメンバーは、2班に分かれ、隔月で活動している。

プルトップ選別作業は毎月第三水曜日9時30分からさつき荘のワーキング室で行っている。その日までに



公共施設・市民団体や個人の集めたプルトップを作業場へ届けるのもプルトップ部員の役目だ。

作業開始は部会長の挨拶から始まる。プルトップは寄贈先別に一つずつ作業台に流される。まず磁石でプルトップを丹念にかきまぜて、スチールを取り除き量り記録する。時には作業終了が午後一時を過ぎること



もあるが作業は楽しい。作業をする皆さんは薄い手袋を着用しているが素手の人もいる。その指の感触から「プルトップを集めて車いすを贈ろうという一人一人のぬくもりを感じる」という。



一週間後には30kg専用の袋にプルトップは詰めかえられて、佐川急便の格安価格の配送を待つ。行き先は北海道の《リングブル再生ネットワーク》、寄贈先の希望車種に規定交換量が達すれば、当方から注文し、車いすが届けられる。

プルトップを集める運動をしている大阪狭山市立東小学校の島村雅彦校長は「継続は力なり、子どもたちがコツコツと集めたプルトップがいつの間にか一つの形になって世の中の役に立っていく。小さな行為の積み重ねは、善意の積み重ねでもある。」と話された。



ほのぼのメモ



どこからか虫の声が聞こえてきます。小さな秋の訪れです。今年の夏は、ロンドンから甲子園からと私たちを楽しませてくれました。毎朝、新聞を見るのが楽しみです。改めてスポーツの素晴らしさ、日本人の精神力の強さに感動しました。

そんな時、ふと、『闘病の子 癒やす明かり』という記事が目にとまりました。それは今秋、淀川キリスト教病院(東淀川区)が、日本で初めて開設する「こどもホスピス病院」に、手作りの照明器具が導入されるといふものです。その手作りの照明器具に使われる明かりは、白熱電球に、和紙と針金でつくった形の笠をつけたもので光が広がります。

明かりで心を癒やす「ライトテラピー」を提唱する照明デザイナーの橋田裕司さんは、四年前から

福祉施設や病院に手作りの作品を寄付する活動を続けています。講師を務める大阪市立デザイン教育研究所の学生らが明かりを制作。院内に作品を並べ、入院している子どもたちが、その中から自由に選べるようにする予定です。ユーモラスな表情を浮かべるヒツジ、窓から飛び出しているネコ、華やかなクジャクなど、既に様々な試作品ができあがっています。「心が落ち着く明かりを作りたい。クリスマス時には、ツリーやサンタなど、季節に応じた作品も追加していきたい」と。

同病院小児科部長の鍋谷さんによると、入院中に夜を怖がる子どもは多いと言います。「楽しく、温かみのある明かりがあれば、気持ちも和らぐはず。ホスピスを楽しみのある空間にしていきたい」と期待しています。

小児がんや、難病を抱える子どもたちが、遊びや学びを体験しながら、少しでも喜びを見つけ、笑顔になれば…と願わずにはいられません。今から嬉しそうなお子どたちの声が聞こえてきそうです。

俳句

さやま荘 俳句クラブ

頼もしき長寿の手相温め酒

宮太鼓響く鎮守や豊の秋

今日のこと今日忘れむと温め酒

羽根田 博

久松 征起

田中 正彰



赤い羽根共同募金運動が始まります

運動期間

10月1日～12月31日



ふれあいサロン

ボランティアグループ連絡会による、市民とボランティアのふれあい・交流のサロンです。お気軽にお越しください。

10月19日(金) / 市立公民館「展示ホール」

※毎月第3金曜日に実施中!!

～喫茶コーナー～

じかん:午前11時～午後3時30分

メニュー:ホットコーヒー、紅茶(各100円)

～自助具の展示コーナー～

じかん:午前11時～午後3時



<持込企画>

「においぶくろ」

ひょう:100円

じかん:午前11時から

※申し込みは不要です。どなたでも自由に参加できます。



編集後記

今年の夏は猛暑にゲリラ豪雨で、日本列島あちこちで被害が続出しました。

豪雨、雷、熱中症、また、山や海でも死者が出て大変な夏でした。

先日、地域で防災の講演会がありました。

「みんなて減災」災害が起こつた時にあなたが支援できること」とい

う講演とビデオで学習しました。減災とは災害による被害をできるだけ小さくする取り組みです。地震・風水害など自然災害は突然やってくる。家の耐震、家具の固定、三日分ぐらいの食料の備蓄、最低限の救急用品の準備などです。

いざという時には支えあえる地域の人間関係も大切になります。

(楠田)